

宛先

ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

<https://lora-saga.jp/>

<https://lora-saga.jp/ialt/index.html>

No. 96

令和元 (2019) 年 10月1日

令和元年佐賀県豪雨被災者へのお見舞い

8月28日の早朝に発生した豪雨により、佐賀県とりわけ南部地域において多くの浸水被害が発生しました。被災された会員や関係する皆様へお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り致します。

佐賀県南部豪雨災害について

低平地の陸地と河川の勾配は小さく、排水能力が乏しいため雨水が陸地に溜まってしまいう内水氾濫の発生は珍しくありません。さらに、佐賀低平地の河川水位は有明海の潮位の影響を強く受けるため、雨水流出と満潮が重なると著しい排水不良を引き起こします。8月28日ではこの最悪のケースが発生したといえます。午前4時台に100mm/時、その前後1時間では約60mm/時ずつ雨が降りました。潮位は午前2時から上昇し、雨水が河川へ集まる時間帯の7時に満潮になりました。

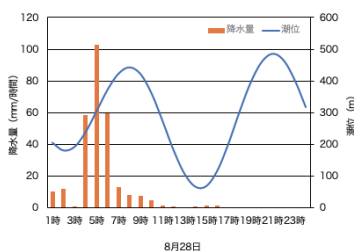


図-1 降水量 (佐賀市) と潮位 (大浦港)

内水氾濫の被害を軽減するためには速やかな雨水排除が必要なため、各地に多数の排水ポンプが備えられています。しかし、前述の通り潮位の影響も受けて河川水位が高くなるとポンプは使えなくなります。そのため、牟田辺遊水池や巨瀬川調整池、お濠やクリークなどを利用した貯留により、平野部では雨水が一時貯留されています。残念ながらこれらを持ってしても今回の豪雨は条件が悪く重大な内水氾濫によって多大な被害が生じましたが、多くの人命被害を招く河川水の氾濫、すなわち外水氾濫を防げたことは幸いでした。

(三島悠一郎：佐賀大学理工学部)

環境専門部会 講演会の開催

「世界の低平地～ポーランドの低平地における環境と再生可能エネルギーの取り組み」

「世界の低平地」シリーズの第5回講演会、「ポーランドの低平地における環境と再生可能エネルギーの取り組み(Environment and Renewable Energy of the Lowland in Poland)」が6月28日(金)に開催されました。ポーランドのルブリン工科大学 Joanna Pawlat (ヨアンナパヴワット) 教授にご講演いただきました。



パヴワット教授

同国の農地は全国の面積の約50%を占めていますが、降雨量は少なく灌漑用水の供給は十分ではありません。そのため、地下水は表流水に替わる重要な水資源となっています。今年は水不足問題が深刻になっており、ルブリン地域にでは1月から6月までの総降雨量は約120mmのみでした。また、近年では集中的な大雨に伴う洪水も懸念されています。このような中で水力発電を中心とした再生可能エネルギー事業の開発も計画されています。同国のエネルギーの11%は再生可能エネルギーです。2020年までに15%まで引き上げることを目標としており、水力発電の取り組みが紹介されました。最後に水質問題及び上水道の仕組みについてご紹介いただきました。低平地研究会の会員及び佐賀大学の関係者計27名が参加されました。質疑では参加者による質問や活発な議論がなされました。

今年は日本とポーランドの外交関係樹立100周年を迎えることもあり、ポーランドの低平地について学ぶことで今後の日本とポーランドの交流へ発展する機会となれば幸いです。来年も「世界の低平地」講演会のご参加をお待ちしております。

低平地研究に関する豆知識 -その29-

「武家地と町人地」

我が国の都市の多くは低平地における城下町を起源とし、東京、大阪、福岡、そして佐賀なども同様です。いずれも城郭を中心に、その周囲に武家地、さらに町人地と社会階級を踏まえたゾーニングがされました。

佐賀を例にすると、「武家地」は現在の城内やお堀の四方を囲むように北堀端小路、西堀端小路、中ノ小路、八幡小路など、「小路」と呼ばれる空間・社会単位で構成されました。これらは規模の大きな屋敷地の集合で、建物や機能が更新されているものの、その佇まいは今日においても裁判所や知事公舎のある界限、水ヶ江などの病院や屋敷のある界限として感じることができます(写真1)。

一方の「町人地」は、城下町を東西に貫通する長崎街道沿いに配された柳町、呉服町、白山町、中町、六座町などです。武家地と比べ各敷地が小さく、特に間口が狭いことが特徴です(写真2)。道がやや狭く、現代の住宅地と異なる敷地形状などのため、今日、空き家や空き地が目立ちます。かつての高密度な住形式を再構築するなど、ここを現代的に住みこなすことは低平地都市の持続にとっても重要です。



写真1 武家地



写真2 町人地

(後藤隆太郎：佐賀大学工学部)

低平地研究 No.28 の発行・配付

機関誌の「低平地研究 No.28」が8月に発行されました。会員の皆様には既に配付されています。

部数に限りはございますが、追加などでお求めの際には研究会事務局へお尋ね下さい。追加の場合でも会員の皆様への配付は無料となっています。



会員 特別会員

動向 株式会社 山崎建設

弊社は昭和22年に創設以来、土木建設業に携わりながら社会資本整備に従事し、『情熱・未来・飛躍』をもって地域社会の繁栄に貢献するよう、社員一同一丸となって邁進しております。又、低平地における軟弱地盤処理工法として、『MITS工法』による深層混合処理機械を導入し、道路・河川等の基礎地盤の強化を図ることにより安全安心な施設を整備しております。今後も、地域に根差す企業として顧客満足度 No.1 を目指し取り組んでいきたいと考えております。



都市空間専門部会

学生空間デザイン公開講評会の共催

8月7日(水)12:00~14:00に、佐賀大学工学部1号館地域連携デザイン工房にて、講師に中村航氏(モザイクデザイン代表、明治大学教育補助講師)をお迎えし、55名の参加がありました。前半では中村氏の最新の取り組みについて、レクチャー「SMALL, MANY, MIXED」



をいただき、後半では大学生による「集まって住むかたち」(集合住宅+商業・公的機能。対象地：佐賀市松原神社の門前・新馬場通り一帯)の作品発表および講評会を行いました。多様化するライフスタイル、文化・商いを編纂したら「集まって住むかたち」、「ストーリー」のある新たな町や建築の可能性について、たくさんの知見が得られる機会になりました。

活動案内

環境専門部会：低平地社会基盤見学ツアーの開催

日時：令和元年11月18日(月)、19日(火)

共催：ASIAN協働講義(佐賀大学)

内容：ミャンマー、ベトナム、インドネシアの4大学とともに佐賀大学において実施する「低平地に関するASIAN協働講義プログラム」の現場見学会とともに、巨瀬川調整池、佐賀市上下水道局、有明海沿岸道路工事現場などを視察します。

※会員の皆様には改めてメールにてご案内します。

編集後記

先般の台風の影響によって、今年は良い紅葉写真を撮ることは難しいかもしれません。学内の銀杏は早々に散りました。
編集：三島、後藤、武富 (lora@lora-saga.jp)